

種子島宇宙センターは人工衛星を打ち上げるための施設です。

大型ロケット組立棟 (VAB)



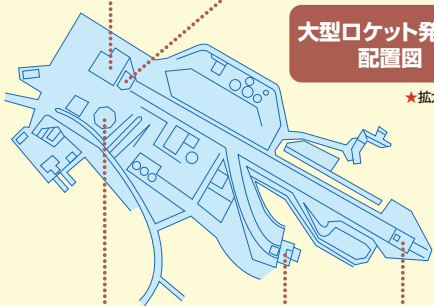
工場から搬入されたロケットを組立・整備・点検するための設備で、2機のロケットを並行して組み立てることができます。ロケットを大型ロケット移動発射台の上に組み立てていき、最後に人工衛星とフェアリングを取り付け、射点へ移動します。VABの高さは81m、幅64m、奥行34.5mです。



大型ロケット移動発射台 (ML)

大型ロケット発射場配置図

★拡大図 (A)



大型ロケット発射管制棟 (B/H)



射点から500mの地下12mに発射管制室があります。ロケット打上げまでの一連の作業に対する指揮・監督などを遠隔操作で行うとともに、総合指令棟に必要な情報を伝達します。

第2射点 (H-IIIB) (専用台)



第1射点ではH-IIAロケットの、第2射点ではH-IIIBロケットの打上げを行っています。

第1射点 (H-IIA) (専用台)



大型ロケット組立棟から見た大型ロケット発射場



A 大型ロケット発射場

宇宙センターの北側を占める大型ロケット発射場では、H-IIロケットに続き、H-IIA、H-IIBロケットの組立・整備・点検・燃料充填、打上げを行っています。



B 小型ロケット発射場

小型ロケット発射場は、宇宙センターの南端にあり、小型ロケットの組み立て・点検・発射管制などを行っていた設備があります。かつてTR-1Aなどの小型ロケットが打ち上げられ、宇宙開発のための基礎実験が行われました。



C 総合指令棟

ロケット打上げの頭脳となる施設です。ロケット打上げの際には、ここに、打上げに関わる各作業の責任者が入ります。全ての情報はここに集められ、発射および追尾、安全管理など、打上げに関するあらゆる決定が行われます。

D 中型ロケット発射場

中型ロケット発射場には、高さ60m、重量2700tの移動整備塔があり、N-IロケットからN-II、H-I、J-Iロケットの打上げが行われました。



E 80m気象塔

より安全にロケット打上げ作業を進めていくには、正確な気象情報が必要となります。80m気象塔は、独自の気象観測データ取得に役立てられます。



F G H I

衛星組立棟・衛星フェアリング組立棟

これらの設備では、人工衛星の組み立てや試験、衛星を保護するカバーであるフェアリングを取り付ける作業などが行われます。



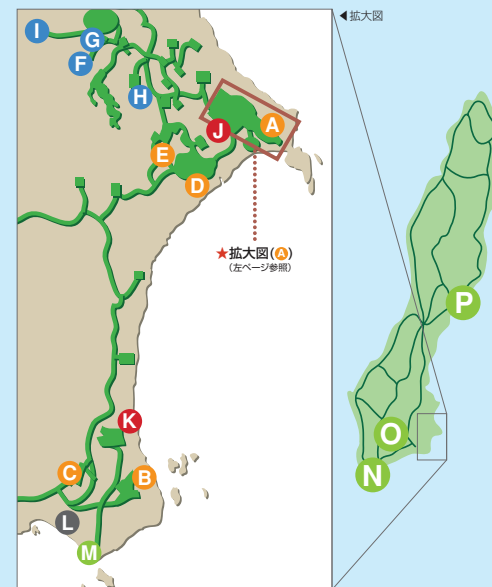
J 液体エンジン試験場

H-IIロケットの心臓部とも言える第1段エンジンでの地上燃焼試験場として整備され、その後はH-IIAロケットの第1段エンジン (LE-7A) の燃焼試験を行いました。



K 固体ロケット試験場

強い推進力を生み出す固体ロケットブースターの地上燃焼試験を行う設備です。H-IIAロケットの固体ロケットブースター (SRB-A) の地上燃焼試験を行いました。



★拡大図 (A)
(左ページ参照)



L 宇宙科学技術館

宇宙開発に関する理解を深めるため、宇宙と人類のかかわり、人工衛星およびロケットの仕組み、JAXAのロケットの特長などをビジュアルに展示しています。



M 竹崎展望台

ロケット打上げ時には、報道機関の取材場所となります。取材用スタンドのほか建物内には、記者会見室、プレスセンターなどが置かれています。

N 門倉光学観測所

打ち上げられたロケットを光学的に追尾し、観測した追尾データを総合指令棟へ送る施設です。門倉のほか、広田、竹崎に光学観測所があります。

O 宇宙ヶ丘追跡所

打ち上げられたロケットから送られてくるテレメトリーデータを受信し、総合指令棟に送ります。

P 増田宇宙通信所

ロケットのレーダーによる捕捉追尾、ロケットから送られてくるテレメトリーデータ受信のほか、人工衛星追跡ネットワークの一局として、人工衛星の追跡および衛星のテレメトリーデータの受信も行っています。